

平成30年度 総務政策常任委員会行政視察報告

◇ 視察先

岐阜県各務原市：「シティプロモーション戦略プラン」について

愛知県高浜市：「高浜市総合サービス株式会社」の運営について

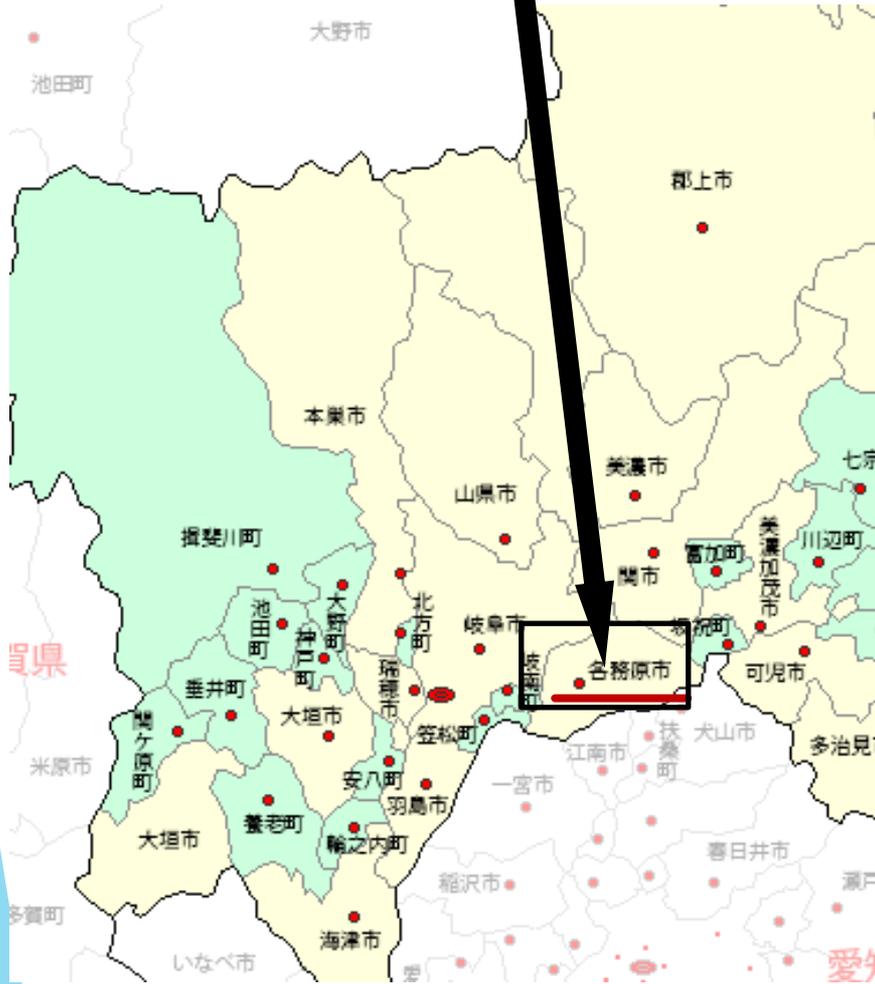
// 江南市：「いこまいCAR」について

◇ 視察参加者

委員長	三樹喜久代
副委員長	岩切 裕
委員	木田 吉信
委員	畝原 幸裕
委員	黒木 高広
委員	日高 和広
委員	谷口 美春



■ 岐阜県各務原市、愛知県高浜市、江南市 広島県



岐阜県各務原市

【市の概要】

人口 148,209人（H31年2月1日）

総面積 87.81km²

財政力指数 0.871（平成29年度決算）

- ・岐阜県中心部へ8キロ、
名古屋市へ30キロに位置する。
- ・南に木曾川が、県境として東西に流れる。
- ・市中央部に航空自衛隊岐阜基地（面積約120万坪）が立地。
- ・航空機、自動車など輸送用機械器具関連産業を中心に製造業が発展。
- ・東海北陸自動車道、
JR高山線、名鉄各務ヶ原線
- ・名古屋市、中部国際空港などへ交通至便
- ・「岐阜各務ヶ原航空宇宙博物館」
- ・河川環境楽園（東海地方有数の観光スポット）



? 「シティプロモーション」とは？

自治体の「営業活動」の総称。地域イメージの確立、地方活性化の一手法として取り組む自治体が増えている。

■各務原市シティプロモーション



「選ばれる都市」の実現に向けて、市のブランドイメージを確立し、移住定住人口の増加につなげるため、平成28年2月に「各務原市シティプロモーション戦略プラン」を策定。本戦略において、東海3県に居住している20～30代の若い世代をメインターゲット層に設定し、本市での「ちょっといい暮らし」を提案。

シティプロモーション戦略プラン

まちの良さを市民自ら掘り起こし、再認識することで「まちへの誇り（シビックプライド）」を醸成し、「まちの魅力」として、市民自ら発信することで、まちのイメージ向上を図る「価値共創シティプロモーション」に取り組む。

■ シティプロモーション戦略プラン ■

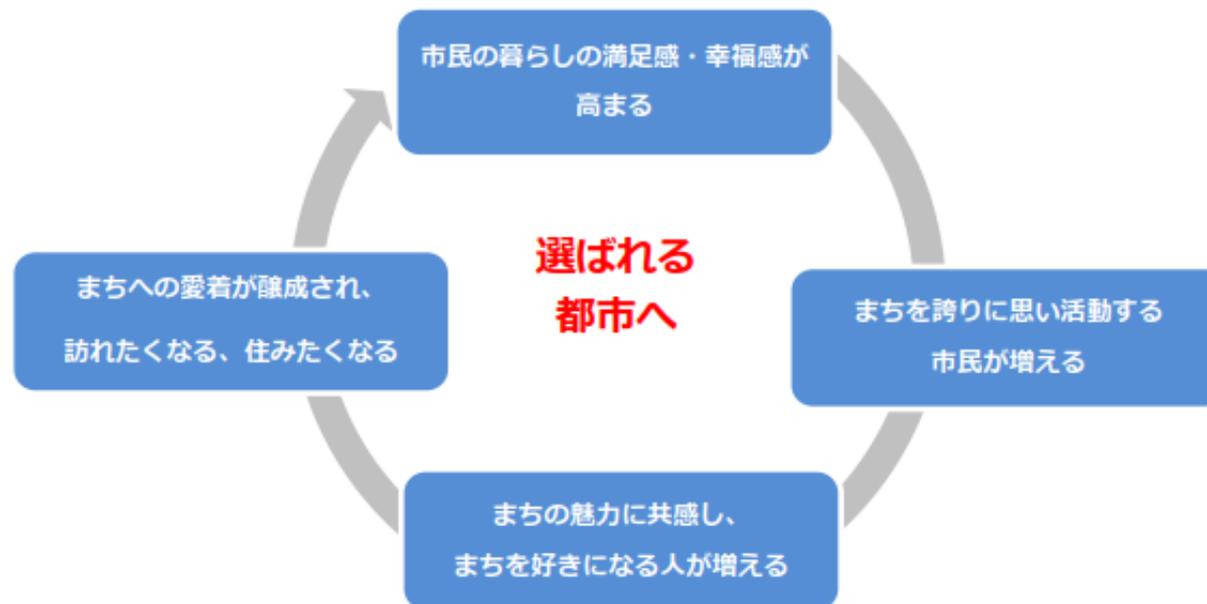
◇ 目的、位置づけ等

1. 必要性と目的

- ・ 全国的に居住者獲得、観光客誘致の動きが加速。選ばれる都市になる必要。
- ・ 「選ばれる都市」の実現に向け、ブランドイメージを確立。
- ・ 知名度アップ、ブランド向上、移住定住による人口増加を図る。

2. 効果

■ シティプロモーションによる好循環サイクル



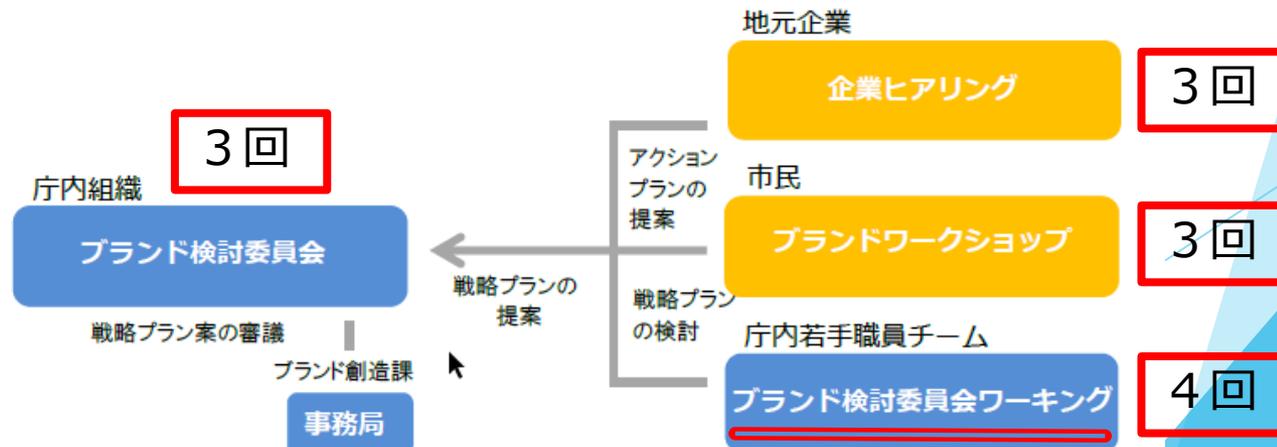
3. 戦略プランの位置づけ、期間＝平成28年度～32年度まで5年間

■計画の位置づけ



4. 策定経過＝市民と対話、市民協働重視、企業意見集約など

■戦略組織イメージ図



◇かがみがはらブランドコンセプト

空と台地の歴史が刻まれた「かがみがはら」。
それは太古の昔から人々が住み続ける台地の名前。
三万年の歴史に裏付けられた各務原台地は教えてくれる。
木曾川が育む自然の豊かさ、
おいしい地下水の恵み、
飛行機の歴史と未来を。
空を見上げ、台地にしっかりと足をつけ、
自分らしく暮らす。
空と台地に守られ、子どもが育つ、大切な時間がここにある。
空と台地の間で、一日がはじまる、幸せの実感。
My Favorite Place, KAKAMIGAHARA

◇ブランドコンセプトを具現化する3つの柱

空で育つ

～未来を切り開く「知」と「技」を学ぶ～

- ・雇用
- ・産業
- ・専門教育(理系、技術)
- ・飛行機の歴史と未来

台地で育つ

～安心な・安全・健全な環境で子どもを育てる～

- ・自然、景観、住環境
- ・安心、安全
- ・水、エコロジー
- ・歴史、伝統

自分らしく育つ

～感性豊かなライフスタイルを実現できる～

- ・イベント
- ・生涯学習
- ・活動
- ・文化芸術、スポーツ

◇戦略プランの方針→「かかみがはらclass」

伝えたい各務原市の魅力は、市民のライフスタイル。
魅力的な暮らしを実践している「ヒト」を軸に
シティプロモーションを展開します。

みんなで作る上質な暮らしを、「かかみがはらclass」と名づけ、
まちへの誇りや愛着を醸成していくことから始めます。

◇戦略プランの方向性 「「価値協創」シティプロモーション」

- ・視点1 「ヒト」を起点とした魅力の創造
～「コト」から「ヒト」へ～
- ・視点2 「ヒト」のつながりを軸にした情報発信
～「人々へ向けて」から「人々と一緒に」へ～
- ・視点3 価値共創サイクルの構築
～「共感」「認知」「共創」「拡散」の好循環～

◇メインターゲットの設定→「30代～40代」

エリア : 東海3県（愛知県、岐阜県、三重県）
属性 : 結婚・出産・子育て世代
ライフスタイル : 生活にこだわりがある人、感性豊かな暮らしを求めている人

◇ロゴマーク

①航空宇宙産業をイメージさせる飛行機と☆を採用。

②☆☆☆三ツ星で、空と台地とわたし（自分らしく）を表現。

※上質なものを表す三ツ星によって、暮らしの質が向上していくイメージを飛行機を用いて表現。

③ターゲットに合わせて小文字を採用（class）。

※大手企業も若者に親しみを持ってもらうため、近年小文字に変更。
（docomo、 au 、meiji、 etc.）

④class のL を 1（first）として、ファーストクラスを表現。

※ファーストクラスを連想させる工夫をすることで、
ちょっといい暮らしを表現。



◇ 「魅力づくり」と「共感づくり」による戦略展開

□方策1 魅力づくり

ブランドコンセプトを具現化する3つの柱「空で育つ」「台地で育つ」「自分らしく育つ」に関連づけた既存事業や魅力ある新規事業を、良好な都市イメージの形成につながる取り組みとして重点的に取り上げます。

アクションプラン

class★1 空で育つ

- ・ 航空人材育成プログラム 等

class★2 台地で育つ

- ・ 各務原台地シンポジウム 等

class★3 自分らしく育つ

- ・ 河川環境楽園夏フェス 等

□方策2 共感づくり

「魅力づくり」で展開する各種事業の情報、あるいはそこで創出される魅力を市内外へ発信していきます。行政だけでなく、各務原市に関わるすべての人が発信者となることで、魅力の共感を広め、その価値を高めていきます。

アクションプラン

- ・ 移住定住ウェブサイト

- ・ モノカタリビト

プロモーション

- ・ 各務原市

シティプロモーション

サポーターズクラブ 等

□ 方策1 魅力づくり

class★1 空で育つ ～未来を切り開く「知」と「技」を学ぶ～

「空」と「航空宇宙産業」をテーマに
 子どもの創造力を育て、
 若者の夢への挑戦を応援します。



■class 1におけるアクションプラン一覧（平成28年度）

No.	アクションプラン名	事業概要
1	レッツ・トライ・イングリッシュ (かかみがはら寺子屋事業 2.0)*	子どもたちの英語学習意欲を高めるため、歌やゲームなどで英語のコミュニケーションを学ぶ教室を開催します。
2	航空人材育成プログラム (かかみがはら寺子屋事業 2.0)	小中学生を対象に、航空機の設計から製造までを疑似体験できる模擬実習を開催します。
3	各務原ものづくり見学 (かかみがはら寺子屋事業 2.0)	小学生を対象に、航空機の組立てや製菓など、市内の様々なものづくり現場を巡る見学ツアーを実施します。
4	子ども起業家育成 (かかみがはら寺子屋事業 2.0)	小学生を対象に、商品の開発や宣伝・販売等を体験できる実習講座を開催します。
5	航空宇宙科学博物館 ものづくり体験教室	かかみがはら航空宇宙科学博物館で様々なものづくりに挑戦する教室を開催します。
6	空コン	かかみがはら航空宇宙科学博物館の展示施設を活用した婚活イベントを開催します。
7	各務原の空を飛ぼうぜ！	市内の空を背景に市民が飛ぶ姿を撮影し、完成した写真を公開します。

*子どもたちの「夢、目標」・「誇り」・「基礎学力」・「豊かな心」を地域の方々と共に作り上げる事業を「かかみがはら寺子屋事業2.0」といいます。

□ 方策2 共感づくり

■共感づくりにおけるアクションプラン一覧（平成28年度）

No.	アクションプラン名	事業概要
1	移住定住ウェブサイト	移住を検討している方に、ウェブサイトを紹介して暮らしのイメージや施策等を、分りやすく、かつ魅力的に伝えます。
2	移住定住促進プロモーション	ワンストップ窓口を設け、円滑に移住希望者を支援するとともに、都市部のフェアに出展し、積極的に情報を発信します。
3	各務原市シティプロモーション サポーターズクラブ	様々な人々が集まり、協働してシティプロモーションに取り組む市民組織を構築し、情報共有を図ります。
4	プロモーション映像 制作ワークショップ	市民が、映像制作技術を学び、市のプロモーション映像を作成して YouTube 等で発信します。
5	You turn プロジェクト	都市部に居住している若者に、親を通して移住定住情報を伝え、Uターン移住を促します。
6	モノカタルピトプロモーション	各務原市の魅力やライフスタイルを積極的に発信する市民を増やすとともに、情報発信の知識を共有します。
7	各務原市プロモーション ツール作成	「かかみがはら class」のキャッチコピーを積極的に活用して露出を高め、市内外にシティプロモーションの取り組みを周知します。

◆ 起点は若い職員、「マーケット理論」による推進 ◆

■ 質疑応答の中から（職員の理解は得られているのか？）

→ 「イノベーター理論」

- ・ シティプロモーション事業のスタートは、若い職員。

若い職員（革新者・イノベーター）

その回りの少数の理解者（初期採用者(理解者)・アーリーアダプター）

少数者の回りの多数の理解者（前期追隨者・アーリーマジョリティ）

後から、やむなく認める多くの人（後期追隨者・レイトマジョリティ）

なかなか認めない、理解できない少数の人（遅滞者・ラガード）

各務原市シティプロモーション視察を終えた委員の所感

- ・ 市民協働と統合計画の「施策の一丁目一番地」に位置づけ、市民との対話を重視した様々な取り組みが実施されている。公共サービスを提供する行政と供給される市民というこれまでの構図を越えて、市民も行政も共に公共サービスを作り出す主体となる「新しい公共」という考えがすばらしい。
- ・ シティプロモーションを推進していくための、アイデアや行動力をもつ市民の参加を促進し、そのうえでまちの魅力づくりのためのイベント開催や情報発信に市民が協働で取り組む体制が構築し、シティプロモーションの担い手を育成する機会として、体験や気づきを促すソークショップやセミナーを開催し、自分なりに地域との関係性を見出し自発的な行動に結びつけ、担い手同士が協力し、価値共創型の組織を構築し、人や企業が集まりやすい組織にしていく魅力的な事業であると思われる。
- ・ 各務原市の住まい・仕事・魅力に関する情報を発信するために、移住定住総合窓口を庁舎内でなく、集客力のあるイオンモール各務原内に設置し移住定住促進に繋げている。待ちの促進でなく、攻めの促進であると痛感したところである。
- ・ 率直に感想を述べると、「余裕のある自治体の上品な遊び」という感じを受けた。もちろん、イノベーター理論に裏打ちされているように、職員、関係者は一生懸命で内容もかなりハイレベルだ。市民「協働」ではなく、市民「共創」というところがポイント。市民が誇りを持ってこそその、シティプロモーション。誇りを持ってないまちを、外には売り出せない。まねは無意味だが、本市ならではの「営業活動」を考える必要がある。サーフィン、市民の誇りになるか。

愛知県高浜市

【市の概要】

人口 48,754人 (H31年3月1日)
総面積 13,11km²
財政力指数 1.097 (平成29年度決算)

- ・ 日本のほぼ中央愛知県三河平野の南西部に位置。
- ・ 中部地方の中心都市である名古屋市から南東へ25キロのところにあつて、東は安城市、西は衣浦港をへだてて半田市、南は碧南市、北は刈谷市に接している。
- ・ **東西4.2km、南北5.5km。**
- ・ 標高5mの洪積台地と標高2mの低地よりなる。
- ・ 生産量日本一を誇る三州瓦の中心的な産地。
- ・ 日本で唯一の「かわら」美術館。
- ・ 輸送機器関連企業の生産拠点が多数立地
- ・ 行財政改革の先進自治体 (例・新庁舎はリース)



? 「高浜市総合サービス株式会社」とは ?

高浜市が100%出資して設立した会社。

「目的は、女性の社会進出、高齢者の雇用、行財政改革の推進役」
(HPより)

■高浜市総合サービス株式会社

◇沿革（概要）

- ・平成3年 4月 高浜市施設管理組合設立
- ・平成7年 4月 高浜市総合サービス株式会社設立（切手、印紙販売）
- ・平成10年 4月 市長車運転業務受託
- ・平成12年 4月 清掃サービス事業開始、バス運転業務受託
- ・平成13年 4月 市役所窓口サービス業務受託（市民課）
- ・平成14年 4月 市役所窓口サービス業務受託（税務課、水道課）
- ・平成18年 4月 市役所窓口サービス業務受託（総合窓口、収納）
- ・平成19年 4月 市役所窓口サービス業務受託（市民生活G）
- ・平成21年 4月 生涯学習施設（公民館等）指定管理業務受託
- ・平成28年 5月 コミュニティビジネス創出支援事業業務受託

■高浜市総合サービス株式会社

◇経営理念

高浜市及び公共的団体のサポーターとして地域社会の発展と市民福祉の向上を目的に事業展開を図るとともに、社会への貢献に努め、地域に根ざした企業をめざします。

◇経営方針

-
- 1.時代を捉えた事業の展開
 - 2.行政と市民のすき間にはいった事業の展開
 - 3.多様な人材の確保・育成により、質の高いサービスの提供
 - 4.市民ニーズに沿った、こころのかようサービスの提供
-

■ 高浜市総合サービス株式会社

役員

TAKAHAMACITY TOTAL SERVICE INC.

平成30年5月16日 現在

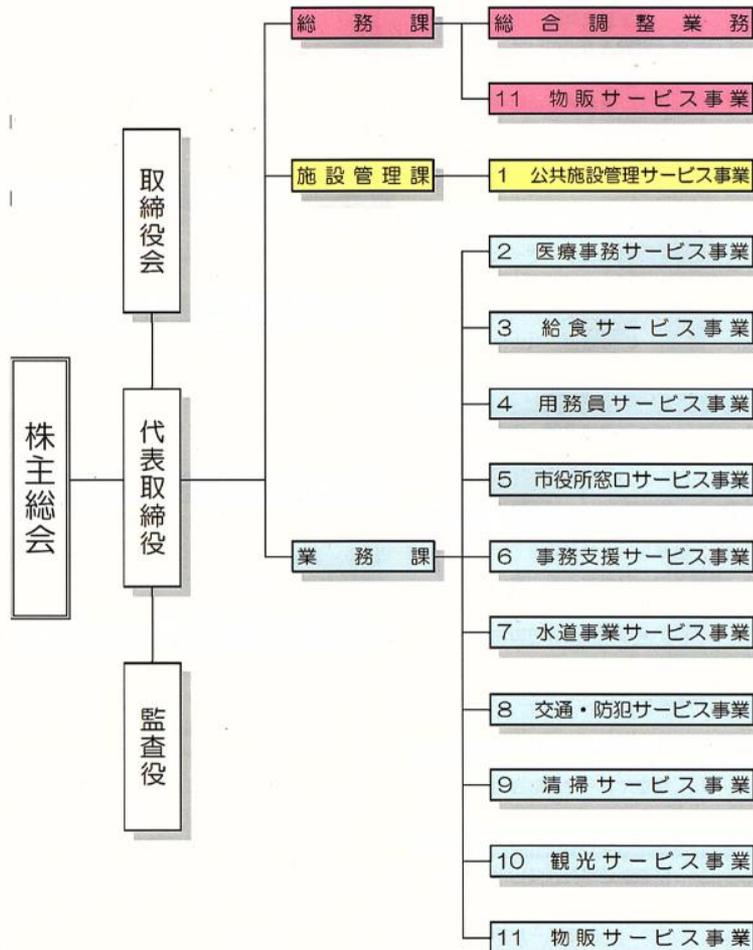
代表取締役	神谷昌彦	市内企業会長	無報酬
取締役	神谷直樹	市内企業社長	無報酬
取締役	都築光義	市内企業社長	無報酬
取締役	野々山光秋	市内企業社長	無報酬
取締役	岩月義成	市内事業主	無報酬
取締役	都築節子	市内企業取締役	無報酬
取締役	加藤佳敬	市内企業社長	無報酬
取締役	下村威	市内企業取締役業務部長	無報酬
取締役	内田徹	総務部長	無報酬
取締役	中村孝徳	市民総合窓口センター長	無報酬
監査役	森泰浩	社会福祉法人理事	無報酬
監査役	田代峯子	税理士	無報酬

高浜市総合サービス株式会社

組 織

TAKAHAMACITY TOTAL SERVICE INC.

平成30年4月1日 現在



事 業

TAKAHAMACITY TOTAL SERVICE INC.

平成30年4月1日現在

1 公共施設管理サービス事業

- ① 高浜エコハウス管理業務
- ② 道水路維持・補修業務
- ③ 公民館等管理運営業務（指定管理）
- ④ かわら美術館管理等業務
- ⑤ クリーンセンター管理業務
- ⑥ 衣浦斎園管理業務

2 医療事務サービス事業

- ① レセプト点検サービス業務
- ② 刈谷豊田総合病院高浜分院医事業務

3 給食サービス事業

- ① 小学校給食サービス業務
- ② 中学校給食サービス業務
- ③ 保育園給食サービス業務
- ④ デイサービスセンター給食サービス業務

4 用務員サービス事業

- ① 小学校用務員サービス業務
- ② 中学校用務員サービス業務
- ③ 幼稚園用務員サービス業務

5 市役所窓口サービス事業

- ① 戸籍窓口サービス業務
- ② 税務・収納窓口サービス業務
- ③ ポルトガル語通訳等サービス業務
- ④ 市民生活窓口サービス業務
- ⑤ 医療窓口サービス業務
- ⑥ 社会福祉情報管理サービス業務
- ⑦ 保健事業支援業務
- ⑧ 都市整備窓口サービス事業

6 事務支援サービス事業

- ① 通知書封入サービス業務
- ② 狂犬病予防接種支援業務
- ③ レントゲンフィルム回収・配送業務
- ④ 席務支援センター業務
- ⑤ 住宅管理等支援事業
- ⑥ スポーツクラブ事務等支援業務
- ⑦ 事務員派遣業務（愛知県衣浦港トラック事業協同組合）

7 水道事業サービス事業

- ① 水道メーター検針業務
- ② 水道窓口サービス業務
- ③ 水道開閉栓等業務
- ④ 下水道事務支援業務

8 交通・防犯サービス事業

- ① 交通安全・防犯対策等業務
- ② 不法投棄等ごみ処理業務

9 清掃サービス事業

- ① 高浜市庁舎清掃サービス業務
- ② いきいき広場等清掃サービス業務
- ③ マリーナ高浜清掃サービス業務
- ④ 衣浦斎園施設内清掃業務
- ⑤ スポーツ施設等定期清掃業務
- ⑥ ヘルパーステーション清掃事業

10 観光サービス事業

- ① 観光協会事務サービス事業

11 物販サービス事業

- ① 飲料水自動販売機設置事業
- ② 切手・収入印紙販売事業
- ③ 自動車リース事業
- ④ コンテナ賃貸事業（高浜市観光案内所）

■高浜市総合サービス株式会社

◇直近の企業概要- 1 -

平成29年度 (第24期)

自 平成29年4月1日 至 平成30年3月31日

1	資本金	50,000,000円	
2	株主	高浜市	
3	代表取締役	石川伸	
4	取締役総数	10名 (無報酬)	民間人8名・市職員2名
5	監査役	2名 (無報酬)	民間人2名
6	事務所	高浜市青木町六丁目6番地23	
7	社員数	244名	正規社員 65名 臨時社員 179名

■高浜市総合サービス株式会社

◇直近の企業概要-2-

【 営業成績及び資産の状況 】

①	売上高	584,742,977円
②	当期利益	6,152,393円
③	総資産	278,699,953円

【 事業の内容 】

単位：円

事業区分	業務数	施設数	売上高	構成比
① 公共施設管理サービス事業	11	11	80,314,883	13.7%
② 医療事務サービス事業	3	2	42,473,749	7.3%
③ 給食サービス事業	5	11	181,097,007	31.0%
④ 用務員サービス事業	3	11	19,731,596	3.4%
⑤ 市役所窓口サービス事業	11	2	84,817,936	14.5%
⑥ 事務支援サービス事業	15	3	27,312,170	4.7%
⑦ 水道事業サービス事業	2	1	25,306,000	4.3%
⑧ 交通・防犯サービス事業	2	1	6,052,000	1.0%
⑨ 清掃サービス事業	8	8	28,492,253	4.8%
⑩ 観光サービス事業	1		4,444,000	0.8%
⑪ 物販サービス事業	7		84,701,383	14.5%

■高浜市総合サービス株式会社

◇直近の企業概要-3-

【取引先】

- ① 高浜市
- ② 乃村工藝社・NTTファシリティーズ美術館共同運営事業体
- ③ 衣浦衛生組合
- ④ 刈谷豊田総合病院高浜分院
- ⑤ 社会福祉法人 高浜市社会福祉協議会
- ⑥ NPOたかはまスポーツクラブ
- ⑦ 高浜市医師会
- ⑧ 特定非営利活動法人 高浜南部まちづくり協議会
- ⑨ 名古屋トヨペット株式会社
- ⑩ 愛知県衣浦港トラック事業協同組合
- ⑪ 昭和建物管理株式会社

【資格免許】

①	特定労働者派遣事業	平成 9年12月16日取得
②	自家用自動車リース業	平成10年 7月 8日取得

「高浜市総合サービス株式会社視察を終えた委員の所感

- ・ 市役所の官舎が20年のリース契約ということに驚いた。昭和60年8月に行政改革の中で公共的な管理について検討がなされ市の財政の4割が人件費であり、民間への移行が必要と考えられ、多角的運営が基本に5000万円の資本金で設立されている。契約のあり方は、市内に入札者がいないために随時契約である。また、市職員の退職後の再雇用先として運用がなされており、業務形態や硬直化、継続性が問題と考える。
- ・ 総合サービス株式化は全国一であり、国より先行している。今後は市職員を減少されることは問題であり、これからの取り組みが課題であると考ええる。
- ・ 平成7年に経営方針として、多様な人材確保・育成・質の高いサービスの提供等を目指して高浜市100%資本金で設立、各種事業を展開し住民サービス、また雇用拡大に繋げている。
- ・ すばらしく、成果も大きい。行政のみでなく、最近では民間からの受託も増加し、利益も増加し経営手法としての株式会社制度は日向市でも参考にすべきであると感じた。
- ・ 高浜市の行財政改革の取り組みの背景には、当時の森貞述市長の「行政は市役所職員だけでなく、市民全員で担う」という基本的な考え方がある。視察のやり取りのなかで、「今でも影響力が残っている」という発言があった。総務省が窓口業務の民間委託に関して視察に来たと聞いて、公共サービスの未来形は高浜市が基本モデルだと知った。

愛知県江南市



【市の概要】

人口 100,609人 (H31年2月28日)

総面積 30,20km²

財政力指数 0.819 (平成29年度決算)

- ・濃尾平野の北部、清流木曾川の南岸に位置。
- ・市域は、東西6.1km、南北8.8km。
- ・木曾川左岸扇状地で全般に平坦。温暖な気候・風土と相まって、暮らしに最適な自然環境。
- ・名古屋市から20km圏に位置。公共交通機関で約20分利便性が高い。
- ・**ベッドタウン**として都市化が進み、愛知県尾張北部の主要都市。
- ・基幹産業である繊維産業は出荷額が低迷。
- ・花卉、野菜等の農業も生産者の高齢化で伸び悩み。
- ・製造業の集積も進んでいない。



? 「いこまいcar」とは？

江南市が実施している、タクシーを利用した地域公共交通。事前に電話予約し、利用料金の半額を公費で負担。

■ 江南市 「いこまいCAR」

「いこまい」とは？

「行きましょう」という意味の地元の言葉

◇ 経過

- ・平成 8年度に「福祉施設送迎車輛運行試行事業」
 - ・9人乗りワゴン車で、大きい団地と周辺部の養護老人ホームを巡回するも、利用者が少なかった。
- ・平成10年頃から、利用者の減少で市内路線バスがあいついで廃止
- ・平成12年12月から、官民によるタクシーを利用した新しい交通システムの研究を開始
- ・平成14年 1月から、タクシーの空車を利用した乗り合い 型タクシー 試行運行（貸切旅客自動車運送業務による乗合旅客運送許可）
 - ・幹線 4 コース、支線54コース。運行時間；午前 8 時30分～午後 5 時
上下各 2 便運行／1 時間、1日上下17便、300m～500m間隔に乗り場設置
 - ・乗車料金は、各コースごと 1 回100円、乗り換えるとさらに100円。
 - ・保護者同伴の小学校入学前児童は無料。
 - ・平成15年度の利用率は、幹線で0.92人／便、支線で0.21人／便
 - ・市の負担金は、幹線で300円/人、支線で1.775円／人（支線の継続不可）

◇江南市「いこまいCAR」の経過

- ・平成19年7月、「江南市地域公共交通会議」設置
最初の議案が「いこまいCAR（予約便）」

■ 課題

- ・民間路線バスと基幹4路線の「いこまいCAR」がカバーできるのは市域の53%で、残りは公共交通「空白地域」。移動手段を持たない市民への支援が不十分。
- ・それまでの9人乗りワゴン車で、大きい団地と周辺部の養護老人ホームを巡回するルート方式による運行は限界。
- ・それまでの、ルート方式による運行は限界。
- ・福祉タクシー料金助成、社協の移送サービス、福祉有償運送などさまざまな福祉移送サービスも、利用者が限定され、「空白地域」解消にはならない。
- ・一般タクシーは、空白地解消には対応できるが、利用者の負担が大きい。

■ 解決策



デマンド型タクシー「いこまいCAR」

- ・「いこまいCAR」と同じセダン型タクシーの空車を利用、デマンド方式で運用。
 - ・利用料は、タクシー料金の半額。（半額を公費負担）
 - ・予め予約して、利用する。
- ・平成19年10月1日から試験運行開始

◇江南市「いこまいCAR」の経過

- ・平成21年4月1日、利用方法改正
 - ・受付期限を変更(2日前 → 1日前)
 - ・運行期間延長(年末年始運休 → 年中無休)
 - ・運行時間の時間延長(通院利用者の往復利用者のみ、17:00 → 18:00)
- ・平成21年10月1日、本格運行開始
- ・平成25年3月31日、「定期便」廃止(運行中の2コース)
- ・平成26年4月1日、利用料金制度改定
 - ・利用者負担変更(100円未満切捨 → 10円未満切捨)
 - ・迎車料金負担変更(市負担を利用者負担へ)
 - ・最低利用料金変更(300円 → 350円(タクシー料金の改定による))
- ・平成28年1月21日、利用料金改定
 - ・最低利用料金変更(350円 → 300円(タクシー料金の改定による))

特徴・要利用者登録、事前予約、送迎自己負担、行き先変更不可
1人利用の場合、個人負担は2分の1、乗合の場合3分の1

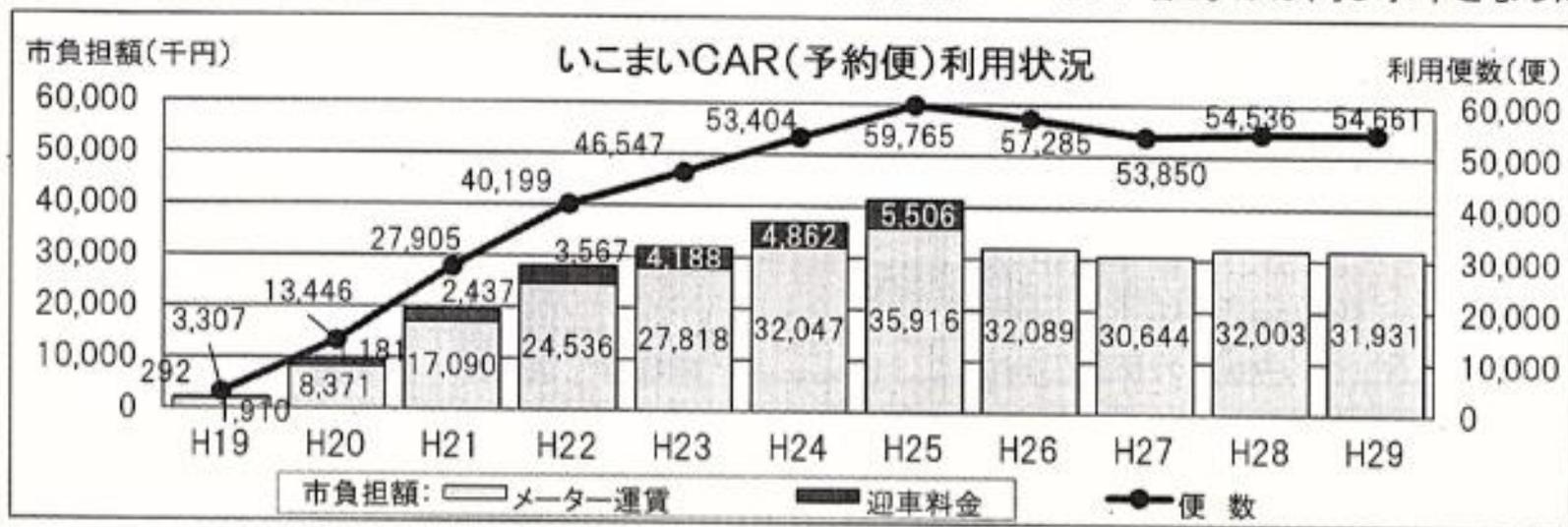
◇江南市「いこまいCAR」(予約便)の利用状況等

1. いこまいCAR(予約便)利用状況(経年比較)

1)市負担額・利用便数の推移

市負担額・利用便数とも、平成25年度までは増加していたが、平成26年度の料金改定^{※1}後は、一時減少し、同程度の利用状況が続いている。

平成29年度は前年と比較し、負担額は0.2%の減、便数は0.3%の増と。ほぼ同じ水準となった。

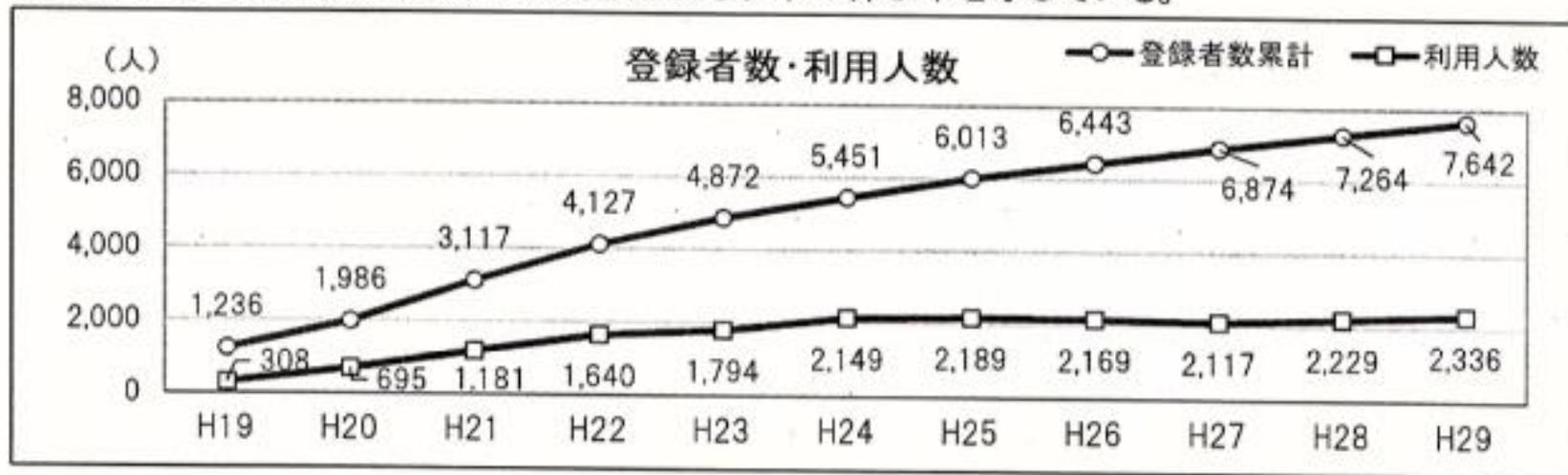


※1 H26 料金改定概要: 迎車料金を市負担→利用者負担、利用者負担を100円未満切捨て→10円未満切捨てに変更。

◇江南市「いこまいCAR」（予約便）の利用状況等

2)登録者数・利用人数の推移

平成29年度末の登録者数は、7,642人で、前年度と比較して5.2%の増、利用人数は2,336人で、4.8%の増となり、登録者数、利用者数とも同水準の伸び率を示している。



◇江南市「いこまいCAR」（予約便）の利用状況等

○登録者数・利用状況

年 度	(人)		利用者数 (人)	便 数 (便)	利用率 (人/便)	市負担額(円)	1便当りの額(円)				
	登録者数	利用人数					うちメーター運賃	うち運賃	利用料金分	市負担分	合計
H19	1,236	308	3,887	3,307	1.18	2,202,240	1,910,410	291,830	485	666	1,151
H20	1,986	695	17,351	13,446	1.29	9,552,140	8,371,070	1,181,070	534	710	1,244
H21	3,117	1,181	37,590	27,905	1.35	19,526,940	17,089,790	2,437,150	521	700	1,221
H22	4,127	1,640	51,348	40,199	1.28	28,103,170	24,535,980	3,567,190	517	699	1,216
H23	4,872	1,794	54,692	46,547	1.17	32,006,190	27,818,160	4,188,030	501	688	1,189
H24	5,451	2,149	63,550	53,404	1.19	36,908,650	32,047,090	4,861,560	501	691	1,192
H25	6,013	2,189	70,911	59,765	1.19	41,421,510	35,916,010	5,505,500	499	693	1,192
H26	6,443	2,169	67,932	57,285	1.19	32,088,610	32,088,610	0	651	560	1,211
H27	6,874	2,117	62,075	53,850	1.15	30,644,050	30,644,050	0	661	569	1,230
H28	7,264	2,229	63,900	54,536	1.17	32,002,680	32,002,680	0	682	587	1,269
H29	7,642	2,336	67,411	54,661	1.23	31,931,270	31,931,270	0	678	584	1,262
計			560,647	464,905	1.21	296,387,450	274,355,120	22,032,330	-	-	-

江南市「いこまいCAR」視察を終えた委員の所感

- ・江南市は工業で栄えている都市であり、交通アクセスの便の良さから名古屋都心部などへの通勤、通学者が多く、いわゆる交通弱者は限られており、通院が一番多く、現在の取り組みに満足しており、これからも続けてほしいとの声が多い様子である。
- ・予約制であり、行き先の変更や目的地以外の場所に立ち寄ることはできず、行きたい場所が複数ある場合は目的地ごとの予約が必要であり移動が限られている。これからは市内全域で移動できる環境の確保のためのサービスが必要であり、日向市での活用は難しいと考える。
- ・中山間における交通弱者対策よりも、住民の公共交通サービスの運行であると考えている。
- ・今後の人口減少から見て、東郷地区の交通手段として参考になるのではないかと視察したが、広域でのタクシー会社を利用するやり方は、本市の場合はまだ課題が多いように感じた。しかし、検討には十分値すると感じた。
- ・市域が狭く、利用者が多いからこそ可能な地域公共交通システムだと思う。年間投入予算は3,000万円ちょっとで、本市よりも費用対効果はかなり高い。やはり、都市部の整備方法だと思う。利用客の減少に悩んでいたタクシー事業者も空車が利用できることで両者winwinの関係。行政の介入も意味がある。